

2001年度における石碑地遺跡の保存と復元」、同研究員の孫立学氏「恵寧寺について」です。当日は、研究所外からも多くの参加者を得ました。普段は目にする機会の少ない中国東北地方における遺跡の調査研究をスライドで見ることができ、充実した講演会となりました。

この講演会は、遼寧省文物考古研究所と奈良文化財研究所が「日中古代墳墓副葬品の比較研究」というテーマで進めている共同研究の一環です。毎年、3～5人程度の研究員がお互いの研究所を訪問し、実際に両国の遺跡を訪れ、遺物を手に取る機会を得ています。講演会は今回が初めての企画でしたが、今後も相互の研究を理解し、公開する場を設けていきたいと考えています。

(平城宮跡発掘調査部 豊島直博)



梁振晶氏による講演

関野 貞の関係資料

奈良文化財研究所は、明治時代の建築史学者である関野貞（1868～1935）の関係資料を所蔵しています。関野貞は奈良県の技師として奈良県の古社寺などを精力的に調査し、現在の奈良の古代建築史学・文化財保護行政の基礎を作った研究者です。また、彼は平城宮・平城京研究の第一人者としても有名で、平城宮第二次大極殿・朝堂院の遺構を発見し、平城宮・京について近代歴史学の立場からはじめて本格的に検討しています。彼の平城宮研究は、学位論文「平城京及大内裏考」にまとめられており、この論文こそが、現在の平城宮・京研究の直接の基礎となっていると言っても過言ではありません。

奈文研所蔵の関野貞関係資料は、彼の日記・原稿などです。これらはご子息の関野克氏が所蔵してきましたが、当研究所が奈良の文化財にたずさわっている縁により、2000年1月に氏より寄贈を受けたものです。

現在その関野 貞関係資料を、文化遺産研究部の歴史研究室が中心となって整理しています。整理してみると、彼が作成した野帳・図面類などに興味深い資料が多くありました。それらは、明治時代における奈良所在の文化財の現状を記録したもので、現在では失われてしまった情報も含まれており、たいへん貴重なものです。

例えば平城宮の現況図は、まだ史跡指定される前の平城宮跡を詳しく記録しています。当時の状況を知る上でも、また、彼の学説形成を知る上でも、またとない資料といえます。

現在、整理作業はまだ緒についたばかりです。今後ここからどんなことが分かるのか、楽しみにしながら少しずつ作業を進めています。

(文化遺産研究部 吉川 聡)



額安寺の明治時代現況図調査風景

研究室紹介

飛鳥資料館・学芸室

飛鳥資料館は、1970年12月「飛鳥地方における歴史的風土および文化財の保存等に関する方策について」の閣議決定がなされ、それに基づいて明日香村に設置されることになりました。1973年に当時の春日野庁舎に庶務室と学芸室が発足し、開館の準備に向けて動きはじめ、閣議決定から5年後の1975年に開館の運びとなりました。開館当時の常設展示は、第1展示室のみで「宮殿、寺院、古墳、石造物、万葉集」のコーナー、高松塚古墳の出土遺物を展示した特別コーナーを設けていました。その後、1981年から発掘調査で掘り出された山田寺東回廊の一部を倒壊以前の形で再現展示するための第2展示室の新設が検討されました。1993年から翌年の6月にかけて増改築工事がおこなわれ、後の1996年になって第2展示室に山田寺東回廊が再現され、現在に至っています。